

チームケア論

単位数（時間数）：1 単位（15 時間） 必修/選択：選択 履修年次：2 年次 開講時期：後期

科目責任者（職位・氏名）：准教授・上田耕介

科目担当者（職位・氏名）：助教・石田知世、助教・佐藤つかさ、助教・添田咲美

対応DP：基礎力をもった社会人 ケア・スピリット 看護専門職者としての基本姿勢
看護の基礎的・専門的知識と技術 社会への関心と地域貢献 生涯学習・自己研鑽

科目記号：38

■ 授業概要

現代の医療では、単に心身の疾患の治療にとどまらない、生活の質（QOL）の維持・向上など総合的な目標の実現としてのケアが追求されている。さらに看護師の活躍の場は、病院だけでなく、生活の場、地域の中に一層の広がりを見せており、そこでは多（他）職種との協働が欠かせないものとなっている。そこで本講義では、ケアチームの一員として、地域包括ケアの担い手として、医療関係の他職種はもとより、福祉など医療以外の多（他）職種と協働できる能力を養うべく、医療社会学の基礎、医療や福祉の現場でのチームケアの具体例の紹介、解説を行う。こうした学習を通して、チームの一員としての役割、チームのあり方を考察する視点の修得を促進する。

■ 到達目標

1. 現代社会における組織、専門職、医療の場の特徴について説明できる。
2. チームケアが必要となった社会的背景を説明できる。
3. 現場によってチームの一員としての看護師の働きに多様性があることを理解できている。
4. 多様な現場のあり方に応じたチームの形成が必要であることを説明できる。

■ 教育内容

健康支援と社会保障制度

■ キーワード

連携、疾病構造の変化、患者、生活、ケアの場、専門性、地域包括ケア、QOL

■ 授業計画（授業項目、授業内容・授業方法、担当教員）

回	授業項目	授業内容・授業方法	担当
1	チームケアへの視点（1）	講義全体のガイダンス、分業と協業（講義）	上田
2	チームケアへの視点（2）	専門職とその組織（講義）	上田
3	チームケアへの視点（3）	医療史と疾病構造の変容（講義）	上田
4	チームケアへの視点（4）	患者像とケアのあり方の変容（講義）	上田
5	チームケアの実践（1）	入院医療と地域生活からの視点（講義）	上田、 佐藤
6	チームケアの実践（2）	「行政保健師」からの視点（講義）	上田、 石田
7	チームケアの実践（3）	看護管理者からの視点（講義）	上田、 ゲスト
8	チームケアの実践（4）	慢性疾患を抱えて生活をする患者の看護の視点（講義）	上田、 添田

■ 履修条件

特になし

■ 成績評価方法

レポート 50%、授業に対するコメント 50%によって評価する。

■ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバック方法

コメントペーパーを用いて、学生からの質問に対して講義中に応答する。

■ 教科書

講義は、講師が用意した資料によって行う。

■ 参考書・参考資料等

講義において適宜文献を紹介する。

■ 準備学修に必要な時間及び具体的な学修内容

受講後、講義内容のふりかえりを 90 分程度すること。この他、講義の前後に予習・復習の課題を提示することがある。

■ 担当教員からのメッセージ

現代社会ではケアの目標が総合化しつつあります。それゆえに、さまざまな職種の人たちとチームを組むことが不可欠になっています。このようにケアに関する領域で、チームが必要とされるようになった理由としての歴史的な背景、社会（そして、社会的営為としての医療）の変化にまで踏み込んでいきます。「チーム医療」という論点から、ケアの現場でのチームのあり方から、現代社会の構造的な特徴まで、幅広く考えることができる講義です。

■ 研究室、連絡先、オフィスアワー

研究室 13、uyeda★iwate-uhms.ac.jp、研究室への来訪の際には、事前にメール
（※メールの際は★を@にしてください）

■ 担当教員の実務経験の有無

有

■ 担当教員の実務経験

看護師、保健師

■ 教員以外で指導に関わる実務経験者の有無

有

■ 教員以外で指導に関わる実務経験者

看護師

■ 実務経験を活かした教育内容

臨床の経験・実態について担当教員およびゲストが説明する。